



浄恩寺 雅楽葬 検索

浄恩寺同朋会報

電話 052-881-8474

「今、お骨になつてのお葬式」

テレビの報道などで知らされてきましたが、その厳しい現実に出会いました。

コロナで亡くなると、ご遺体は病院から火葬場（名古屋第二斎場）に直接搬送されて、お骨になつて帰宅されます。

年末から新年にかけて、コロナで亡くなる方の件数が非常に増え、ご遺体の搬送と遺骨の搬送に直接関わる葬儀社の担当者から、その実状を聞きました。

「社内には感染者を出さないため、防護服を着る者は、限定した人員で対処しています。ですが、限界をこえ、ご遺骨をお届けは、一般社員にも手伝わってもらっています。一世間の目もあり、ご遺骨を迎えた後、葬儀を営まれる方は少ないようです。」

そんなコロナ禍死は、お寺の縁者の計報により、より厳しい現実となりました。同居家族全員が順に感染してしまい、複数者が亡くなつてしまったので、葬儀を執り行つてもらいたいという連絡でした。

最後に亡くなられた方は、亡くなつて二週間を過ぎていました。喪主様を始め、家族親族の多くはPCR検査されたそうです。住む人がいなくなつた自宅の消毒をし、貴重品の整理をやつと始められたそうです。

葬儀は、葬儀会館がえらばれました。ご遺体の搬送を担当してくれた会社でした。ご葬儀告別式に初七日法要を組み込みお勤めをさせて頂きました。

合掌

「新年のわんこ」

元旦、ワヤワヤの新年幕開けでした。毎日の散歩、鶴舞公園の池が凍ることもありました。咲く花は減りましたが、野鳥たちが遊ぶ姿も観察でき



て、ワヤワヤの新年幕開けでした。毎日の散歩、鶴舞公園の池が凍ることもありました。咲く花は減りましたが、野鳥たちが遊ぶ姿も観察でき



縁あって、岐阜県立斐太高等学校伝統の卒業式で行われる「白線流し」の時歌われる「巴城ヶ丘別離の歌」の作者河内敏明氏の葬儀をお勤めさせて頂きました。戦地に赴く友への送別の歌、楽譜もなく、口伝で歌い繋がれてきた歌。深い想いが即興の歌になり、以来延々と歌い継がれてきた歌。戦争と無縁の現代の卒業生の心にどのようの刻まれていくのでしょうか。訃報を教頭先生にお伝えし、今年、コロナ禍の状況下で「白線流し」が行われるのか尋ねました。「今年、人数を制限して行う予定です。」



